

令和3年度 第1回 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町  
 社会福祉活動支援地域協議会 会議録 【議事要旨】

日 時	令和3年12月3日(火) 午前10時00分～午前11時20分	
場 所	岸和田市立福祉総合センター 3階 大会議室	
出席委員	16名	
欠席委員	4名	
事務局	岸和田市	福祉部長、福祉政策課長
	泉大津市	福祉政策課長
	貝塚市	高齢介護課長
	和泉市	福祉総務課長
	高石市	社会福祉課長代理
	忠岡町	地域福祉課長
	5市1町 広域事業者指導課	広域事業者指導課長、調整参事、他職員4名
傍聴者	なし	
次 第	<p>1. 開 会</p> <p>(1) 委員の紹介</p> <p>(2) 報告事項・確認事項</p> <p>(3) 座長・副座長の選出</p> <p>2. 案 件</p> <p>(1) 地域の福祉課題に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこでもコミュニティ事業～どんなときも気持ちは密～」の展開</li> <li>・コロナ禍での新たな老人クラブ活動について</li> </ul> <p>(2) その他</p> <p>3. 閉 会</p>	

配布資料	1. 会議次第 2. 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町社会福祉活動支援地域協議会委員名簿 3. 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町社会福祉活動支援地域協議会設置運営要領 4. 地域協議会の開催の趣旨について 5. コロナ禍で新たに必要となった支援等における意見及びその他ご意見の取りまとめ 6. 「どこでもコミュニティ事業～どんなときも気持ちは密～」の展開 7. コロナ禍での新たな老人クラブ活動について
------	---

## 【議事】

### 1. 開 会

### 2. 案 件

(1) 地域の福祉課題に関すること

#### ○「どこでもコミュニティ事業～どんなときも気持ちは密～」の展開

##### ー組織活動の在り方や新たな方策・アイデアについてー

[座 長] では、泉大津市社会福祉協議会●●委員からいただいている事案について、説明  
いただきたいと思います。●●委員、よろしくをお願いします。

[委 員] ただいまご紹介に預かりました泉大津市社会福祉協議会の●●です。ご指名によりまして、僭越ながら私ども泉大津市社協における事例の報告をさせていただきます。

コロナ禍における新たな取り組み事例報告「どこでもコミュニティ事業～どんなときも気持ち（心）は密～」の展開についての内容です。

まず、新規事業の紹介から事業実施までのプロセスについてです。これまでの私ども社会福祉協議会の活動は、直接会う、集まる、会話をするなど、人との交流やつながりを軸に取り組んで参りました。このように当たり前としていたこれらのつながりが、コロナ禍において外出自粛や密を避けなければならないということから停滞してしまいました。

その結果として、地域のあらゆる人と人との切り離された状態になり、孤独感や不安感を抱くとともに、健康面や生活面への影響として、例えば、フレイル、虐待、生活困窮、特殊詐欺などの犯罪に巻き込まれる危険性も高まっています。つながりのあり方を問い直すとともに孤立しがちな方への支援として、つながりを絶やさない、つながり続ける地域づくりを目指し、令和3年度から本事業に取り組むことになりました。

次に実施内容ですが、移動型としての機動力を活かしながら「つながりを絶やさない・つながり続ける地域づくり」を目指し、三密を避けた屋外で安心して集える「集いの場づくり」として、各地区の課題解決のためにサロンや学習・交流等の広場の提供を行うものです。

具体的な内容は、

- ①目標回数は、移動型の集いの場を1ヵ月に12回～15回。
- ②開催場所として、公園、広場、駐車場など、屋外を中心に機動力を活かしてどこに

でも何うことを目指した活動。

③サロン、体操、講座、読み聞かせ、紙芝居、脳トレ、介護予防ゲーム等、地域の方々  
が取り組みたいものを取り組めるよう支援。

④対象者は、コロナ禍でつながりにくくなった子どもから高齢者、障がい児者等地域  
住民すべての方が対象。

⑤連携等については、少人数で密を避け、つながりづくりを念頭に、総合相談支援を  
実施し、各専門職、民生委員児童委員の方々と連携。

⑥活動場所や人材などを広報し、募集。

⑦テント、イス、机、プロジェクター、スクリーン、体操 DVD、将棋、囲碁などの物  
品貸出し支援。

⑧行動指針は、継続して取り組んでいくための住民主体の原則に基づく支援展開。

また、FMラジオ（コミュニティFM局「FMいずみおおつ」）を活用した細やかな  
地域情報発信、泉大津警察と連携した防犯啓発等を実施しています。

地域には高齢者をはじめ、情報弱者とされる方々がいることから、どのように情報  
を届けていくかが課題でした。このため、FMいずみおおつを活用し、細やかな地域  
情報を発信することによって、情報弱者とされる方々も含め、地域住民全ての方々に  
負担なく情報を発信でき、家事や育児、仕事の合間等に様々な情報（介護予防、防犯、  
福祉制度等）を気軽に受け取ることが可能となります。そして、この「どこでもコミ  
ュニティ事業」についての周知にも活用しています。FMいずみおおつの放送は、1  
日に10回程度行っていただいています。

次に、参加者からの声ですが、

- ・外出や他者との交流の機会をもつ事の重要性の再確認につながった。
- ・定期的にみんなと会えて体を動かせる場があつてうれしい。
- ・いつも準備も片付けも任せていたので、少しでも手伝えることがあればと思い少  
し早めに来た。

などといった反響がありました。

先にも述べましたが、泉大津市社協としては、住民主体の原則に基づく支援の展開  
を心掛け、これらの活動を通じて、参加される方々にできるだけたくさんの気づきを  
提供できるよう取り組んでいます。介護予防をはじめ、地域のさまざまな活動は住民  
自らが意識し、継続して取り組んでいくことが重要と考えますので、このような参加  
者の意識の変化は非常にうれしいものだと考えています。

次に、振り返りですが、参加者の表情が明るくなったと感じています。コロナ禍の  
影響で、これまでは一人自宅でテレビ体操をしているという方も多数参加しており  
ましたが、人と一緒に体操をする事で声を出して笑い合い、励まし合う場面もあり、  
心身ともに良い刺激となっているように感じました。

そして、先ほどの参加者の声にもあるように、ただ参加するという意識から、一緒  
に場を作るといった、参加者の意識の変化がみられました。

また、毎回参加人数が増えてきている状況であり、本事業に取り組んで本当によか

ったと感じています。

次に、今後期待される効果と発展性についてですが、

- ①コミュニティFM局（FMいずみおおつ）を地域情報のインフラとして活用することで、地域住民に安心・安全を与える「福祉コミュニティづくり」につなげます。また、FMいずみおおつを活用することによる宣伝等の効果を期待します。
- ②本事業で交流基盤をつくり、地域住民同士の交流の継続及び将来的には多世代間や障がい児者の交流が当たり前になるような展開を目指していきます。
- ③地域住民が主体的に備品等を利用する活動に対して支援します。また、オンラインを活用した活動の普及及び充実を図ります。
- ④連携・協働、ネットワークの構築として、本事業を通して地域住民と学生、企業、事業所等の垣根をなくし、将来的には市全体として包括的に地域の課題解決やつながりを意識化させ、見守り支援の強化や地域活性化のために活かします。
- ⑤人との交流やつながりを通して、これまで課題を抱えていた人が将来的には同じような課題を抱えている人を支えられるような、支え合いの輪を広げていきます。
- ⑥屋外で活動することによる認知度の向上、宣伝効果を期待します。
- ⑦人が人を呼び、つながりや交流の場が広がることを期待します。

以上、簡単ではございますが、事例報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

[座 長] どうもありがとうございました。ご報告をいただきました内容について、委員の皆様のご意見等をいただきたいと思えます。

なかなかコロナ禍で活動再開が厳しい中、懸命に取り組まれている事例だというふうに思います。

皆様から意見が出るのをお待ちする中で、FMいずみおおつの放送を1日10回程度流すということですが、1日10回ぐらい流すと視聴を逃す人が少なくなり、それが活動参加に良い影響を与えていたということでしょうか。

[委 員] はい。私どもも当初はもう少し少ない回数とと思っていましたが、事あるごとに合間を縫って放送していただいています。非常に効果が大きいと考えています。

[座 長] ありがとうございます。委員の皆様ご意見はいかがでしょうか。

今のお話は、コロナ禍のため開催場所を工夫し、屋外を活動の場にされたということで、参加者も参加しやすかったと思います。

また、体操をメインにした活動例を挙げられていますが、ニーズを調べたうえで、体操をメインの活動としたということでしょうか。

[委 員] はい。どのような活動がよいのか、地域の方々に相談させていただきましたところ、最近体力が落ちてきたというような声が非常に多くありました。

しかし、自分たちは専門家ではないので、なかなか特別なことはできないと考え、ラジオ体操から始めてみようということになりました

まず、モデル的地区において、ラジオ体操を始めたところ、そこに参加していた方々はイメージがつかめたということで、他の地域でもできるのではないかと、広が

っていきました。

私ども社協はそのような広がりのお手伝いをさせていただいています。この活動は、継続が重要であり、一人一人の方々にとにかく毎日続けていただきたいと思っています。そういった意味でも特別なものではなく、ラジオ一つあれば活動ができるということが地域に根付いていったのではないかと考えております。

[座 長] はい、ありがとうございます。委員の皆さま、これらをふまえいかがでしょうか。では、●●委員お願いします。

[委 員] 以前新聞で、草履や雪駄を履いて、あしゆびから健康にという内容の泉大津市長の記事を見ました。今回の取組は、その「あしゆび体操」とは別のものですか。

[委 員] 同じでございます。同じ取り組みを私どもも行っていきます。地区により、「あしゆび体操」をやりたいという所は行っていただく。こちらからメニューのこれをして下さいではなく、たくさんあるニーズの中から「うちはこれをやりたい」という方々の声を聞いて取り組んでいただいています。

[委 員] ありがとうございます。

[座 長] 他に意見等はございますか。

では、●●委員どうぞ。

[委 員] 我が家は川の傍にありまして、明るくなる頃の朝6時ぐらいから、地域の皆さんは朝の散歩をされています。そして、河川敷で散歩のついでにテープを流してラジオ体操もされています。コロナ禍で外出する機会が少なくなっている中、お年寄りも朝早く歩き、ラジオ体操をして、すぐに帰られます。屋外の公園等で色々な体操をされるのは、すごくいいなと思います。まずは、ラジオ体操第一であれば皆さんご存じだと思うので、そこから楽しい体操を色々な町で行えば、健康にもいいし、若い人ともつながれるので精神的にもいいなと思わせていただきました。

[座 長] ありがとうございます。余談ですが、ある繁華街では、夕方4時頃から町内会がラジオ体操を流します。そうすると、声がけするわけでもなく、たくさんの人たちが表に出てきて、ラジオ体操を始めるそうです。繁華街で今から仕事が始まるような人たちも参加して、その体操が地域の関係づくりにつながっているというような話を聞いたことがあります。

他に意見等はいかがでしょうか。では、●●委員どうぞ。

[委 員] 私ども岸和田市老人クラブ連合会では、10月までは本当に何を企画しても参加する人がいませんでした。逆にコロナに対しての知識がつきすぎて、危ないから密になるところには行かないというような雰囲気でした。私自身も大阪府のコロナの感染数よりも岸和田市、あるいは泉州地域の感染数を毎日気にしていました。その中でも岸和田市は多い方でした。特に今年は祭りを開催したことにより、増加することが懸念されていましたが、その割に感染者数は拡大しませんでした。お話いただいた●●委員の泉大津市も感染者数を見ていたのですが、非常に少ない印象です。そこから考えると、皆さん、コロナが怖いという感覚が少ないのではないかとこの気持ちもあります。コロナ禍において、このように色々な事業ができるのは、やはり感染者数にも

関係するだろうと思います。

11月にグラウンドゴルフ大会を行いました。3団体の人たちはコロナ禍の影響で欠席させてほしいという申し出がありました。23団体ありますが、20団体で行いました。人数も制限しなければならないので、例年は220～230人で行いますが、今回は100人ほどで行いました。

実施後の役員の感想としては、屋外であろうとも、久しぶりにたくさん人が集まると話も弾んでしまうものですので、初めからこの程度が実は適当だったのではないかと感じています。

泉大津市社協におかれましては、このコロナ禍でよくぞこれだけ綿密に計画されて実行されたものと感服いたします。また、私たちも学ばなければいけないと思いました。

[座長] どうもありがとうございます。

●●委員からお言葉をいただいたように、このような泉大津市社協の取り組みを参考にさせていただいて、何か新たな取り組みにつなげていただければと思います。

私が東日本大震災のボランティアに行っていた際に、仮設住宅の地域があり、そこに集会所が全くないところがありました。100戸ぐらい建っているが、集会所が確保できない。そういった時に、どうすればいいのだろうと考え、暖かい夏場だったらテントでもいいのではないかとということで、テントを張り、そこで青空サロンというものを行いました。

靴を脱いであがったり、ドアを開けて入っていくというのは、後から参加する人にとっては参加しにくく、敷居が高いという声がありました。逆に、そのようなテントのみであると、気軽に入れて参加しやすいというお話がありました。

また、避難訓練などは、コロナ禍によって集まってできない状況でありますので、隣近所で、一緒に避難するような人たちが、お互いの家の1階から2階にあがる訓練をしたりであったり、スマホで避難訓練の練習を共有したりと色々な方法があると思います。今回の泉大津市社協の発表を参考にしていきたいと思いました。

それでは、次の議題に移りたいと思います。では、●●委員、お願いいたします。

## ○コロナ禍での新たな老人クラブ活動について

[委員] 和泉市老人クラブ連合会の●●でございます。

コロナ禍での新たな老人クラブ活動について説明させていただきます。市老連活動、校区の活動、その他の活動、この3つに分け、説明させていただきます。

まず、の市老連の活動の主なものである会議の開催ですが、年度当初の総会は、第3次の緊急事態宣言中でしたので、中止しました。本部会長会議につきましては、主に和泉市の総合福祉会館をお借りし、本校役員と校区会長、女性部、若手部の本校役員、総勢33人で構成し、原則として毎月第2月曜日午後から開催しています。緊急事態宣言が発出されてからは、会館が閉鎖されているときは文書にて議決することとしました。

緊急事態宣言中でも会議室が使用可能となった場合は、役員会、校区協議会を半分に分け2回開催することとしました。議案を1日に3回、同じことを説明しなければならないので大変でした。現在は正常の運営に戻っています。

次に、グラウンドゴルフ大会等屋外競技は、緊急事態宣言中であり中止としました。宣言解除後は、ペタンク等の屋外活動及びすこやか文化祭の開催を予定しています。来年の2月にはパラ・オリンピック後援会を予定しており、これはコロナ対策を徹底のうえ、実施することとしています。

例年9月に開催している、白寿、米寿とダイヤモンド婚、金婚の方々を顕賞する市老連大会、この式典は緊急事態宣言中で休止としましたが、受賞された皆様に、懸賞状、感謝状等記念品に加えて、レトルトの赤飯を校区会長・単位クラブ会長と単位クラブ役員が手分けし、安否確認を兼ねた見守り活動として受賞者宅を個別に訪問しお渡ししました。

また、和泉市内21校区に市有施設として老人集会所が設置されていますが、消毒用アルコール、パネルを設置し、人数制限のうえ活動しました。

その他、昨年は笑い与健康講演会と題して「音楽と笑顔に勝る薬なし」というお笑いトークを開催しました。そして、今年アマデウス大西先生の講演を予定していましたが、緊急事態宣言中であったため、アマデウス大西先生には無観客でDVD撮りをさせていただき、そのDVDを鑑賞希望校区に貸し出しすることにしました。ただし、該当校区だけで使用し、転貸し、複製は厳禁という条件を付しました。

また、大阪府老人クラブ連合会のWEBサイトにも掲載していますが、大阪府老人クラブ連合会の活動、「広げよう手作りマスクの輪」というキャンペーンで当市労連の女性部と校区リーダーが参加し、和泉木綿を使用して作成したマスクを市民に配布しています。私どもは、このような行事にも参加しています。

府老連の事業に地域支え合い活動があります。10月に「どんな時もつながりを絶やさない」と題した研修を行いました。会場にも参加者はいましたが、私ども役員は和泉市総合福祉会館にてZOOM会議で参加しました。ZOOM会議を初めて経験し、今後もこのような方式で広がってほしいと思いました。なお、これを機に、当市労連はデジタル化に向けて勉強会を設置しました。

次に、校区の活動の主なものとして、市内21校区の老人集会所等において、「国分町のおじいちゃん、おばあちゃん体に気を付けていつまでも元気でいてね」という活動を行いました。老人クラブと子供会が共同で、中学生以下の子供たちからの絵手紙、励ましの文章を募集し、それを冊子にしたものを地元の高齢者宅に配布しました。高齢者の方々にとても喜んでいただいたと聞いています。

その他の事業として、初めての試みですが、社会福祉協議会との共催で赤い羽根共同募金事業の一環として、「昔遊びを楽しもう」と題した取り組みを行いました。場所は、和泉中央のアムゼモール、市南部の横山にあります南部リージョンセンター、市役所の横にありますコミュニティセンター、市北部の信太にあります北部リージョンセンター、この市内4か所の会場で開催しました。感染防止を徹底しながら、子

供からシニアまで、世代間交流として、3世代に渡っての和気あいあいとした交流ができたと思っています。

以上、簡単ではございますが、報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

[座 長] どうもありがとうございました。コロナ禍でこれだけ感染防止の徹底に力を入れながらも、リスクをうまく共有し合い活動を続けてこられたということがよくわかりました。

では、只今ご報告いただいた●●委員からのお話について、何かご質問等がございましたら、委員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

はい、●●委員お願ひします。

[委 員] 笑い与健康の講演会のDVDを作成され、貸し出されたということですが、地域の皆さんで鑑賞し、一緒に笑い合ったりしたその集いの方法をもう少し詳しくお聞きしたいです。

[委 員] 校区に老人集会所がありまして、一つの校区では年末に、クリスマスパーティーを開催し、その中の一つとしてDVD鑑賞するようです。それも密にならないように何回かに分けて行うと聞いております。結果はまだこれからです。

[委 員] 密にせず、こういった活動を行うことは、すごくいいことだなと思いました。コロナ禍によって、多くの方はそういった集まりが中止になり、出かけるところがないという環境の中で、密を回避しながら可能な限り集いの場をつくるということは、素晴らしいと思いました。

[座 長] ありがとうございます。笑い与健康というテーマがいいですね。DVDの内容は楽しいものなのでしょうね。

[委 員] アマデウス大西先生は、ピアノを弾いて、我々にも歌を歌わせてくれたのですが、感染拡大防止のため、小さい声で歌ってくださいということでした。

[座 長] 活動が再開できないという声を地域で活動している方々から最近よく聞きます。活動が停滞しているような事案がありましたら、今回、●●委員からご報告いただいた内容を持ち帰っていただいて、情報共有していただければと思います。

では、●●委員からの報告は以上としまして、事前に他に意見を取りまとめているのですが、他の委員の方でこの場で紹介していただくことが可能でしたら、お願ひできればと思います。いかがでしょうか。

はい、●●委員お願ひします。

## (2) その他

[委 員] コロナ禍で外出自粛等により、なかなか見守り活動ができていません。コミュニティカフェ等が地域で開催できていないことで引きこもりがちになったり、家庭内においてDVが起こったり、そういった色々な課題が出てきている現状です。高石市では、令和3年度に一大プロジェクトとして、「孤立ゼロプロジェクト」を実施して

います。行政と高石市社会福祉協議会が一体となって、支援が必要な世帯や課題のあるような世帯を発見していきます。

判断基準としまして、行政における様々な部署において関わりがあれば、行政と関わりがある人です。例えば、幼稚園、小学校、中学校に通っている人がいる家庭は、学校と何らかの形でつながっている。

また、介護保険等を利用している方については、何らかの形で事業所等とつながっているということです。

高石市内には、約2万6千世帯ありますが、そのうち行政や介護保険等を利用してつながっている世帯を除いた世帯は、約1万5～6千世帯あります。それらの世帯へ今年度中に訪問し、そこでつながりを作っていくという事業です。

今日の午前中にもある地域で、訪問活動を行いました。訪問する皆さんは、社会福祉協議会の職員、事業をされている事業所のケアマネージャー、地域から有志でサポーターになっていただいている方の3人1組で、つながりを作るべく各世帯へ訪問しています。不在のところについては、アンケート調査の実施や社協の総合相談窓口、「どんなことでもいいから困り事があったら相談してください」といった内容のチラシを各戸投函しています。

今年度は9月末に緊急事態宣言がようやく解除され、本格的に10月からこの活動は動き出しています。今のところ1万6千世帯のうちの6千世帯ほどに、個別に訪問し面会しながら、問題はないか、支援が必要ではないか等を確認しながら活動しています。

実際には、支援が必要、課題がある世帯というのは、その場でなかなか把握することができないという難しさもありますので、訪問した社協職員、地域の方、事業所のケアマネージャーが、「この家庭気になるな」というような気づきがあった場合には一旦、名前と住所を控えて持ち帰り、後日、社協の職員が、再度訪問させていただいて、そこでどのような支援が必要かということを深く聴取しています。

これまで10月、11月に訪問した中で、50数件のつながりが必要な世帯を把握しています。その詳細は、家庭内のDVであったりするので、警察等とも連携を図りながら対応していきます。

また、就労支援については、コロナ禍となり、仕事を辞めざるを得ない状況になった方について、ハローワークと連携しながら就労支援につなげていくという取り組みを実施しています。引きこもりは、その区別はなかなか難しいですが、該当すると考えられる方には、本人了解のもと、毎週水曜日に高石市社協の施設内でモーニングカフェの取り組みを行っていますので、そこでの受付業務等を手伝っていただき、そういったことを体験し就労につなげていくという方法で進めています。

課題があるような支援が必要な世帯については、次年度以降も、引き続き、つながりをつくり支援につなげながらやっていくつもりです。

以上が報告となります。ありがとうございました。

[座長] ありがとうございます。本当に良いお話が聞けました。ぜひ、今年度だけの事業で

終わらず、継続してやっていただければと思います。

では他に、引き続きご報告いただける委員の方はいらっしゃいますか。

はい、●●委員どうぞお願いします。

[委 員] 私は、障がい児者の保護者の会ですので、当事者の会ということで活動しております。色々な行事を行ってきましたが、これまで、子供たちへ教育の場の提供等を行ってきましたが、それがコロナ禍によりボランティアさんと一緒に遊ぶことができないので、休止状態になってしまっています。

そんな中、できることをやるという気持ちでやってまいりました。私どもが課題としているのは、防災の問題です。なかなか現状会員さん同士が会うこともできないので、アンケートという形式で、実際に災害等が起きた時に、自分たちはどのように身を守るのか、どのように避難所に移動するか、避難所をどう利用したいのか、ということ意見を意見出ししていただきました。

会員は、100名程度ですが、地域の支援学級で高石市から通う支援学級の方、小さい子供たちが通うところでは、私の知る限りの事業所にも協力をお願いしました。やはりみなさん、漠然と不安を抱えていました。私は、避難所に避難することは、子供を抱えて大変だろうと考えており、避難したいができないのではないかとという答えを想定していたのですが、意外と皆さん、避難所に避難するという回答でした。

これは、市との協議で避難所をどういう形にしていくかを、今後取り組む課題としていきたいと思っています。そして、高石市としっかり協議していきたいと考えています。

[座 長] 貴重なご意見ありがとうございます。過去の災害でも、高齢、障害のある方々のリスクは大きいと言われてきました。非日常になった時のことを日常的に考えていく。そういったことを行政も含めて一緒に考えていくことが大切かと思います。

委員の皆様、他にございますか。

無いようですので、本日の会議は以上とさせていただきます。

今日は、皆様の多角的な視点からの意見を多数いただきありがとうございます。このような形で皆様からご意見をいただくことにより、地域の福祉課題について、今後の方向性など共通の認識を持つことができたのではないかと思います。

本日は、ありがとうございます。

### 3. 閉 会

以上